

高平道藤

たかひら
まらぎら

國學者、歌人。天保二年十一月十六日陸奥國田代井

郡一關注れ、明治二十八年十一月十六日没（二八三—九五）。初名清敏。

號岡の（廻）屋、岡舎、虛篋。少時千葉並、伊藤直敏に學ぶ。長じて

田村藩の祐筆となり、伊達氏九代邦行に仕へた。のち國學を志し、藩

候に扈從として江戸滞在中心前田夏蔭の門に入り、夏蔭没後は後繼の前

田夏繁（香雪）に節事した。維新後、藩費教成寮の學頭に推され、も

た一關神社、駒形神社祠官となり、累進して中講義に任じられた。歌文書

畫を能くし、殊に和歌は佐々木親覽に學び、師の後を承けて點者とな

りた。明治十年代東京府書籍館、東京圖書館に在職。

著書に、『開化教諭百首』（内題「開化教諭百首」明治十二年六月岡田屋

藏版）、『音訓假字便覽』（三版・明治二十七年九月）二十五日大八洲

學會）、『岡舎歌史集』（明治二十四年一月）二十日巖手・本間道治刊）

等。